



# 『六所神社 社誌』 刊行に寄せて 阿部克郷（上藤島）

「神社」と聞いて、まず思い浮かぶ事は、東日本大震災の大津波から惨禍を逃れた「浪分（なみわけ）神社」である。（TBS報道特集・2011.8.20「なぜ神社の手前で大津波が止まったか？」）

東北太平洋岸で津波の被害を調べると、津波の浸水域の線上に、多くの神社が無傷で残っていた。

大昔から、何度も大津波に襲われた人々が、子孫を守るべく神社を建立し、津波の記憶を残した古の知恵である。神社建立後、その神社で村祭りを行い、その年毎の豊作を祈り、



豊作に感謝し、神社を記憶させた。

庄内藤島地区には六所神社が存在する。六所神社の由緒は殆ど知られていない。

ここで、編集委員会の長年に亘るご尽力により、六所神社の由緒に関する「六所神社社誌」が纏まり、刊行された。

神社内外に残された資料、石碑などを読み解き、関係各位、ご先祖様の係わり方を判り易く解説している。この社誌を読み、温故知新を楽しみたい。

5月20日、共産党志位委員長との党首討論

## ポツダム宣言―平和・民主の新日本出発の原点を無視する安倍発言 ―「しんぶん赤旗」を読んで 青山 崇

で、安倍首相は「つまりらかに読んでいない。論評を差し控えたい」という巧妙な言い方で、ポツダム宣言を無視・否定する発言は国内外に大きな波紋を投じている。

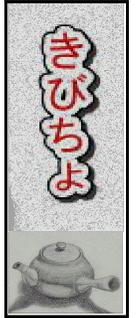
侵略戦争と天皇の専制政治に命がけで反対した共産党は、この宣言について、「軍国主義の除去と民主主義の確立を基本的な内容としたもので、日本の国民が進むべき道は、平和

で民主的な日本の実現であることを示した」と綱領に書き評価している。まさに平和・民主の戦後新日本の基本・原点になった宣言である。

宣言にそって新憲法がつくられ、中学1年生に、文部省は教科書『あたらしい憲法のはなし』（戦争放棄・主権在民・基本的人権等）による授業を行なった。また軍国主義者公職追放・農地改革・国民の自由を奪った治安維持

法廃止などの改革が次々に行われ、国民は飢えながらも自由で明るい空気をしばらくぶりに吸っていた。13、14歳の少年であった私もそれを感じたほどである。

その後、教師になった私は、ポツダム宣言の背景・内容・意義を熟く説き社会科の授業を進めたものである。このような宣言の無視は戦後70年の平和・民主の国づくりを否定するものである。



### とてもアブネー機械

ハワイでオスプレイが着陸に失敗したというあの煙。民間機の場合、低く入り過ぎて引っかけたとか、オーバークラッシュとか滑走路から外れたとか言いますが、オスプレイは何も出てきません。

▼今回の失敗はドスンでシヨ。つまり墜落でシヨ。だから燃えたんですヨ。これで9回目ですよ。これで9回目ですよ。一人を入れて死者は40人だトカ。当然ケガで運ばれてから亡くなつた数は入ってないわけ、とてもアブネー機械だぜ。ナーみんな。

▼こんな機械を日本政府は「安全は確認された」と言ってるんです。沖縄県知事は県民の安心安全を守るという立場から、事故原因が究明されるまでは飛ばないように米側に求めるというのは当然の

こと。  
▼こんな機械が沖縄には24機あるというし、2年後からは横田基地（日本の首都・東京にですヨ）に10機入れるという。我が国の自衛隊では佐賀空港に4年後から17機入るらしい。  
▼17機については、米国の国防総省からオスプレイ17機が売却予定だと発表されたんだ。誰かが欲しいと言ったのか。ナゼ17機なんだ。それとも押し売りか。  
▼どつちにしても今年の話で、1機103億円だったモノが国防総省では212億円というのだ。倍以上だゾ。  
▼こんな機械のネジクギ1本だつて、ン万円だろうし、ダイヤ日本には運転手がいらないですヨ。国民生活を犠牲にしてこんなモノを買うのは、平和のためにも絶対反対だ！。

（石川）



しんぶん赤旗5月21日付